

平成 31 年度第 1 回 長野市総合計画審議会 会議録

日 時：平成 31 年 4 月 23 日（火） 午後 3 時から午後 4 時まで

場 所：第一・第二委員会室（第一庁舎 7 階）

出席者：委 員/ 青柳委員、荒井委員、池尻委員、市村委員、伊藤委員、大日方委員、
金物委員、萱津委員、熊井委員、黒岩委員、小木曾委員、廣田委員、
梅干野委員、山崎委員、横地委員

長野市/ 倉石総務部長、酒井企画政策部長、清水財政部長、増田地域・市民生活部長、樋口保健福祉部長、北原こども未来部長、宮尾環境部長、高橋商工観光部長、倉島文化スポーツ振興部長、倉島農林部長（代理：櫻井農業政策課長）、小林建設部長、羽片都市整備部長、伊熊会計局長、竹内教育次長（行政）、永井教育次長（教育）、西澤上下水道局長、島田消防局長、鎌田危機管理防災監

事務局/（企画課）日台次長、羽田補佐、宮坂係長、山口主査、板倉主査、白澤主査、小林主事、名取主事
（人口増推進課）池田課長、宮下補佐、飛澤主査

1 開会

（事務局）

定刻になりましたので、これより長野市総合計画審議会を開会いたします。

はじめに、委員の交代についてご報告いたします。寺田裕明委員につきまして、一身上の都合により 3 月 31 日をもって退任のお申し出がありました。このため、後任の委員の人選を行い、横地克己様に 4 月 1 日付けで委員の委嘱を行いましたので、ご報告いたします。新たな委員名簿をお手元に配付いたしましたので、ご確認ください。

また、平成 31 年 4 月 1 日付けの人事異動により、部局長が一部交代しておりますが、お手元にお配りしました名簿により、紹介に代えさせていただきます。

では、本日の資料についてですが、事前にお送りいたしました、次第、資料 1 平成 31 年度版 第五次総合計画実施計画、資料 2-1 長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 31 年度アクションプラン事業、そして、資料 2-2 総合戦略平成 31 年度アクションプランです。

資料のない方はいらっしゃいますでしょうか。

それから、本日、清水委員、藤原委員、牧野委員、宮沢委員の合計 4 名の方から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、金物会長からご挨拶をお願いいたします。

(金物会長)

皆様こんにちは。会長の金物です。今現在、お花見の季節で、散ってしまったところがあればまだ満開のところもありますけど、何となくこの時期、桜をはらはらと見てはちょっと心が乱れる時期なのですが、私の勤めている大学のあるところは川中島でして、桜は散りましたけど、今、桃の花が満開で、桃の花のピンクが本当にきれいに映えまして、非常に良い季節だなと、いつもこの時期になると思います。

平成も終わりになりますけれども、今度、令和の時代を迎えます。今年度、第1回目の総合計画審議会ということで、気持ちも新たによろしくお願ひしたいと思います。

本日は、総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて、今年度実施する事業をまとめた実施計画、アクションプランにつきまして、審議を予定しています。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、今年度が最終年度、それから総合計画前期基本計画は、計画期間の中間の年度となります。計画の着実の推進に向けて、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、審議に移らせていただきますが、議長につきましては、金物会長にお願ひいたします。なお、審議時間ですが、事務局としましては午後4時頃を予定しておりますので、よろしくお願ひします。それでは、金物会長、よろしくお願ひいたします。

(金物会長)

それでは、議事に入りたいと思います。

議事の(1)、平成31年版第五次長野市総合計画実施計画について、事務局からご説明をお願ひします。

—事務局説明—

(金物会長)

第五次総合計画前期基本計画における3度目の実施計画ということですがけれども、今回の平成31年度版では、実数で406の主要事業が掲載されているとのこと。

実施計画の構成、それから主要事業を抜粋して、今、お話ししていただきましたけれども、ご意見とか感想などありましたらよろしくお願ひします。

ちょっと膨大な量なので、なかなかすぐに意見が出ないと思いますけれども、前もって配ってあって何か気がついたことがあれば、お話ししたいと思ひます。

(伊藤委員)

総合計画も3年目で固まっているとは思いますが、人口を増やす、あるいは現状維持というのが主として最大の目標だと伺っているものの、この予算を見ると、行政ですから仕方ないとは思いますが、活力あるまちづくりとか、あるいは、定住人口の増加に向けて、重点的に予算が配分されているかという、必ずしもそうではない気がします。

どこの町でもどこの選挙でも、「うちの村に来てもらうようにやります」というのは日本全国でやっている。でも、日本全国で少子・高齢化になっているのですから、他の地域から長野の魅力を感じて移ってもらう政策というのは難しいと思います。

地域で結婚して出産して育ててくれる、そういう方々を応援しないと人口は増えないと思います。例えば福井県などはそのあたりをうまくやっていますが、概してうまくいっていないところが多いと思います。

この前の審議会でも申し上げましたが、結局、出産後というよりはその前段階で、未婚者が多い。いわゆる団塊ジュニア、40代から30代にかけて、独身が非常に多いです。結婚したいという気持ちはあるもののなかなか良い相手がいない、というのがよく新聞に書いてあります。私も消防団に入っていますが、やはり消防団でも独身が多いというのが、正直な感想です。

結婚支援事業、約1千万円で予算が通ったのですね。5年前くらいに始まった婚活の夢先案内人、私も一応メンバーなのですが、実績はございません。メンバーになって、その後、2年から3年たった時に、1回、研修会がありまして、そこで寸劇を見ました。親戚に声をかけたりしますが、なかなか難しいという現状です。この前、テレビで、愛媛県ですごく成功している事例があるとやっていました。とにかく合わせれば良いというわけではなく、お互いに希望がありますから、そのデータのマッチングをしないとなかなか動きがない。この結婚支援事業は、すごく大切だと思います。

とにかく婚姻率が下がっていますが、昔だったら年長者から「世帯を持って一人前だ」と言われたものです。僕らもよく言われました。でも、そういうことは、時代が変わり、なかなか言えません。昔でしたら、職場で上司が仲人になって結婚したのですが、それももう、今はほとんどありません。後ろから背中を押してくれるというのが生活の中で薄れています。だから、行政が「家庭を持つことは楽しいことだ」とメッセージとして伝え、結婚を増やすことに予算と人・物・金を配分しないと、やはり長野市の人口は減ってしまう。

社会減が多いとおっしゃっていましたよね。ほとんどが都市部、東京に出ていきます。若い人だったら東京に出て働きたいと思うのは普通です。昔だったらお前は長男だからって家を継ぐために帰ってきた人がいましたが、もう今は、そういう意識は薄れています。だから、ここに住んでいる人たちが家庭を持てる環境を作り上げない限りは、長野市の人口減、社会減はおそらく続きます。

長野市も中核都市だ、県庁所在地だと言っていますが、下手をすると北陸新幹線は長野をスキップして金沢まで行くようになってしまうかもしれません。人口を30、40万くらい維持できるようにしておくことは、やはりすごく大切なことだと思いますが、いかかがでしょ

うか。

(金物会長)

今のご意見、結婚支援とか、人口を増やすには未婚の人の問題が大事だと、お話がありました。事務局から何かありますか。

(事務局)

今年度の総合計画の実施計画について説明させていただきましたが、5ページのところで、まち・ひと・しごと創生総合戦略と、今説明いたしました総合計画の関係をお示した図があります。伊藤委員のおっしゃるとおり、確かに、今の実施計画には様々な分野が入っています。7分野ごとにそれぞれの施策を掲載しており、その事業として406の事業を掲載しております。

まち・ひと・しごと創生総合戦略については、一番上にあるのが人口ビジョン、その下に総合戦略がありまして、実施計画に該当するものがアクションプラン、後ほど説明させていただく部分ですが、こちらは、人口減少下における地方創生、まち・ひと・しごとに焦点を当てて作成していますので、後ほど議事の2番目の中で説明をしていきたいと思っております。

(金物会長)

よろしいでしょうか。

では、議事(2)、総合戦略のアクションプランについて、事務局からお願いします。

—事務局説明—

(金物会長)

人口減少対策の施策体系をまとめた総合戦略のアクションプランですが、既に議会で決定した今年度予算を基に、具体的事業をまとめた計画として作成したものだということですね。ご覧いただき、何かありましたらご発言をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(小木曾委員)

県立大の小木曾です。

まず、この会議のコンセプトを理解できていないのですが、決まってしまった事業に対して、私どもがここで発言することによって、何か変わったりすることはないのでしょうか。

内容についても細々とした意見があるのですが、まずそこだけお聞かせいただければと思います。

(金物会長)

ここで意見を言うことに意味があるのかという、鋭い質問ですが、いかがでしょうか。

(事務局)

今回、アクションプランをお示ししております、今年度の基本的な事業はこれで決まっているということで、まずは、これで動いてまいります。ただ、来年度の事業というのは、7月ぐらいから事業の組立てが始まりまして、国の概算要求は8月頃ありますが、それを踏まえて長野市の方でもプレの予算編成を始め、10月ぐらいから本格的に予算編成を行い、最終的に1月頃に大筋を固め、3月議会に諮る、ということで、1年がかりで予算を組んでおります。この段階でご説明させていただき、さらに7月頃にもK P Iの進捗状況についてご説明する予定ですが、いただいたご意見は来年度予算に反映していくということで、この段階で、今年度すぐに反映するのは、なかなか難しいというように考えておりますけれども、皆様の貴重なご意見が予算編成に反映されるということでお考えいただけたらありがたいと思っております。

(小木曾委員)

ありがとうございます。それを踏まえた上で、まず一つ目の意見としては、これはとても良いと思ったのが、161番の、病児・病後児保育の実施病院が増えたということで、子育て世代としましてはとてもありがたいです。日赤さんでは前から実施されていて、ただ、なかなか預けにくい状況もございましたが、そういった中で、さらに1病院で実施いただくのはありがたいと感じたところです。

それからもう一つ、小児に対するサポートはすごく充実している反面、小学校以降のサポートというのが、なかなかちょっと難しいのかなと感じました。例えば、私どもの経験で大変恐縮ですが、今、息子たちが小学校に通っておりまして、P T Aの活動でベルマークを集めています。何千点、何万点とたまった時点で、小学校で必要なものを購入する形になっていますが、ちょっと違うような気がしています。

と言いますのは、教育委員会は市とか県の管轄ですから、必要な予算は、本来であれば市・県から補てんされなければいけないと思うのです。それをP T A任せの、例えばベルマークで賄うというのはちょっと違うような気がしてまして、例えば、この小学校でこれが欲しいといった時に対応できる、余裕のある予算があると良いのでは、と個人的には考えています。一つの意見としてご理解いただければと思います。

(金物会長)

いかがでしょうか。

(永井教育次長)

多くの学校ではベルマーク活動を行っておりますが、非常に手間のかかる作業で、あれだけの活動をして卓球台1台か、といった状況ではございます。

ただ、様々なご意見があろうかと思いますが、自発的に取り組んでいただいている部分でもございまして、元々は、PTAの方たちが自分たちで何かできないか、ということから始まって取り組まれている部分もあります。学校のことを考えていただいて、予算を、というのは、私たちにするととてもありがたいご意見ですが、それと全く重ねて考えていくべき活動であるかどうかという問題は少しあるのだろうと思います。ただ、「お金を学校の方に回してほしい」というシンプルなお意見は、現場の立場からすればとても嬉しいと思います。

(金物会長)

よろしいでしょうか。

(小木曾委員)

ベルマークについて、元々の志としてはそうだったと思うのですが、小学校のPTA活動をしていると、今はどちらかというと逆に義務化されてしまっているというか、予算がないから集めましょうといった感覚になっている気がします。実際にたくさんベルマークが集められているかというところでもなく、集めたベルマークが何かの物に変わるまでに5年とか6年かかっていて、結局、物が来ないうちに卒業してしまったということも結構あります。そういった物を購入する予算が無いのかなと、こちらの方としては心配してまして、もし、小学校なり中学校なり高校なりで、欲しい物が本当はあるのだけれども、そういった形で賄われているのであれば、もう少しサポートしていただけないかな、という一意見です。

(金物会長)

よろしいですね。ご発言、ありがとうございます。

それでは、他に何かご質問はありますか。

(熊井委員)

質問ですが、総合計画実施計画の142ページの一番上に、戸隠観光施設の運営事業で、3億円とあります。戸隠スキー場は民間に移管したのではないかと考えているのですが、どのようなことでしょうか。

(高橋商工観光部長)

戸隠観光施設運営事業につきまして、戸隠スキー場については、指定管理者制度というものを使って運営しております。と言いますのは、長野市が設置者で、運営を民間にお願いしているということでございまして、スキー場に関しては、いわゆる上下分離と言いますが、

リフトのメンテナンスなどについては長野市の責任において支出しております。運営収支の部分は民間、今年度は、長野市開発公社に運営をしていただいています。長野市の方で負担している部分が3億円となっておりますが、企業会計でやっておりますので、メンテナンスや借金の返済など全て足した合計で、3億円と記載しているものでございます。

(熊井委員)

分かりました。ありがとうございました。

(金物会長)

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

その他にございますか。

(梅干野委員)

私も先ほどの質問同様、いまいち本日の議事がよく分からないと言いますか、実際、まち・ひと・しごと創生総合戦略の一つ一つの事業についてコメントするだけであれば、むしろこの資料をいただいて、メールか何かで意見を寄せれば良いだけですので、もう少し、議事の中で議論すべき課題を事務局の方で詰めていただき、審議会を開いていただければ思っております。おそらくこの先の審議会も数が限られているでしょうし、これだけの人間が集まって一日で議論するわけですから、有意義に会を開けるように努力していただければ思っております。

(金物会長)

ごもっともなご意見だと思います。

その他にいかがでしょうか。

(池尻委員)

前回の審議会で、どうしたら長野市の人口が増えるかについて話し合いましたが、その話し合いに参加して、その後すごく色々なことを考えました。人口が増えるというのは、長野市レベルの問題ではないと思います。日本全国の問題ではないでしょうか。私は第2次ベビーブームの世代ですが、この世代では結婚していない人もいて、それでそこからどんどん人口が減っている部分があります。この計画は平成38年度までですが、いずれ、長野市がとか、松本市がとか、というレベルでなくて、日本全体で人口が減っていく中で、例えば、長野にもたくさん人が来てもらいたいし住んでもらいたいですが、そういうことも大事ですが、たとえば20年先に、長野市は大合併で、戸隠とか鬼無里とか色々なところが合併されてきましたが、そういったところの人口が減っていく、そういうところのインフラを今後どうしていくのかとか、おそらく、そういう時代が来ると思います。人口を増やしていこうと

言っても、今すぐには増えていかないと思いますし、実際に、うちの子どもたちの世代はかなり人口が減っているのです、やはりそこを増やすのは、今からはできないと思います。

そういうことを考えると、たぶん、私たち第2次ベビーブームの世代が60歳ぐらいになった時に、色々な問題が出てくると思うので、前進してプラスに考えていくということも必要ではありますが、将来を見据えて「こういうふうになるから、こうやっていかないといけないのではないか」という、そういうことも審議していった方が、長野市民のためにもなるのではないかと、といったことを考えてみたのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

今回は今年度初めての審議会となっておりますが、次回、7月頃に開催する審議会では、これまで取り組んできた内容を検証したいと思っております。人口を増やせる時代ではないのは明らかでありまして、その中でどうやって地域ごとに活力を維持していくかという観点で、全国各地域で総合戦略を作ってきた経過の中で、地域間競争みたいところがあるので、どうしてもプラス思考に近いような戦略が多かったのかな、と感じているところではあります。

池尻委員がおっしゃるとおり、どうやってインフラを維持していくのが最も喫緊の課題であります。総合計画は2年後まで改定はありませんので、その中で取り組むことになるのですが、戦略の方はここで一旦終了になってしまいますので、今後2年間、どこに重点を置いていくべきなのか、どういったところを市民の皆さんにご理解いただきながら力を入れていくべきなのか、ぜひ、議論いただけたらありがたいと思っております。

(金物会長)

よろしいでしょうか。

(事務局)

補足ですが、池尻委員から今ご意見いただきましたインフラの関係を含めた公共施設のマネジメントにつきましては、総合計画実施計画の行政経営分野、50ページの一番上のところに、公共施設マネジメント推進事業がございます。31年度予算として2,796万8千円を計上しておりますが、市民ワークショップとか公共施設の適正化検討委員会というものを立ち上げて、実施しております。また、現在、個別の施設の計画策定に着手している状況でございます。

(金物会長)

よろしいでしょうか。非常に難しいことを我々は話し合っておりますので、もどかしい気持ちを皆さんお持ちだと思いますが、少しずつ意見を言っていただき、積み重ねていければと思います。よろしく申し上げます。

(青柳委員)

事前に資料をいただいていたので、ざっと拝見しました。伊藤議員から冒頭に質問がありましたように、事業が大変多岐に渡りますので、一つ一つを捉えると必ずしも十分な予算ではないというのが実感であります。これは市の財政ですから仕方ないと思うのですが。

事業には、外部に支払いをすることによって達成する事業と、お金をかけて市民を巻き込んで事業を実行する中で達成できる事業、この2つがあるように感じました。後者の方の、市民を抱き込んで実行して成果を出していく事業に関しては、おそらく、この事業を行政の中で行う人たちの熱意が、成果に大きく影響するように思います。今日こちらにお揃いの皆さんは、名簿を見ますと部長さんですとか課長さんですとか、マネジメント管理者の方が多いいので、実際にはもう少し若い方たちがこういった事業を推進していくのだろうと思います。私にも経験があるのですが、行政から電話がかかってきて「これ、どうでしょう。何とかありませんか」とか、「もう少し深く意見を聞かせていただけませんか」、あるいは「このことに賛同してほしい」とお誘いをいただくことがあります。私は、動きたくなるし、動きます。やはり行政というのは、そういう面がすごく大事だと思います。仕事の上で市民を抱き込んでいく。電話一本でもそれだけのエネルギーが出ます。だから、若い方たちが仕事をする時に、そのあたりを強化していただくことによって、全体的な成果の底上げができるような気がします。だから、事業を計画として設定しました、予算をつけました、これだけでも大変な仕事だと思いますけれども、実行するだけの職員のエネルギー、市民に対するエネルギーの出し方というのか、熱意の持ち方というのか、そのあたりもぜひ加えていただければ、もう少し全体的な成果の底上げにつながっていくのではないかと思います。

(金物会長)

ご発言、ありがとうございます。

ただいまのご発言に事務局からコメントはありますか。よろしいでしょうか。

それでは、議事を終了し、事務局にお返ししますので、よろしくお願いします。

(事務局)

たくさんの貴重なご意見、ありがとうございます。

それでは、事務局から次回の日程について申し上げます。次回の審議会ですが、7月24日(水)、午後3時から開催します。場所は、市役所の第一庁舎5階の庁議室を予定しております。

詳細は、後日改めて通知を差し上げますので、そちらでご確認いただければと思います。今年度は、次回を含めまして、あと4回程度、会議の開催を予定しております。主には、総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理と、総合戦略の延長についてご審議をいただきたいと思っております。

また、先ほど、梅干野委員さんからご指摘いただきましたように、会議の論点や、会議の進め方については、事務局の方で工夫していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、閉会といたします。ありがとうございました。